

1 気候変動への対応

各工場・各事業所・不動産事業等で使用する電力・燃料の脱炭素化

①使用燃料転換、設備導入、運転状況見直しを実施する

◆主な取り組み

- ・当社事業所(清水バイオ工場・総合研究所)に太陽光発電設備を設置

◆2030年度目標	◆2022年度目標		◆2022年度実績		◆達成状況
CO2排出量 削減率 38% (2013年度比)	CO2削減量 1,840t-CO2/年 (2013年度比)	(清水バイオ工場)	CO2削減量 1,955t-CO2/年 (2013年度比)	(清水バイオ工場)	○
	(内、太陽光発電 470t-CO2/年)		(内、太陽光発電 125t-CO2/年)		△
	再エネ割合 約14%		再エネ割合 約4%		×
	CO2削減量 550t-CO2/年 (2013年度比)	(総合研究所)	CO2削減量 462t-CO2/年	(総合研究所)	△
	(内、太陽光発電 90t-CO2/年)	再エネ割合 100%	(内、太陽光発電 30t-CO2/年)	再エネ割合 100%	△
	CO2削減量 175t-CO2/年 (2013年度比)	(ビジネスセンター) 再エネ割合 100%	CO2削減量 175t-CO2/年 (2013年度比)	(ビジネスセンター) 再エネ割合 100%	○

※達成状況 ◎=目標数値を大きく超えた ○=目標数値を超えた △=目標数値に僅かながら到達せず ×=目標数値にほど遠い

総合研究所、ビジネスセンターは、「カーボンプラン」の導入により再生エネルギー割合100%を既に達成している。

社用車、社用農業機械等の使用燃料の脱炭素化

①社用車のHV・EV比率を増加させる

◆主な取り組み

- ・社用車にHVを導入

◆2030年度目標	◆2022年度目標	◆2022年度実績	◆達成状況
全社車両台数の36%	全社車両台数の4%	全社車両台数の4%	○

※達成状況 ◎=目標数値を大きく超えた ○=目標数値を超えた △=目標数値に僅かながら到達せず ×=目標数値にほど遠い

2 資源の有効活用

各工場・各事業所から排出される産業副産物の有効物利用促進、維持(資源の循環利用)

①産業廃棄物の有効利用を促進する

◆主な取り組み

- ・ライムケーキ(炭酸カルシウムを主成分とする製糖副産物)を土壌改良剤として農地に還元
- ・石炭灰をセメント原料等として有効利用

◆2030年度目標	◆2022年度目標	◆2022年度実績	◆達成状況
産業廃棄物の有効利用率 95%以上	産業廃棄物の有効利用率 95%以上	産業廃棄物の有効利用率 95%	○

※達成状況 ◎=目標数値を大きく超えた ○=目標数値を超えた △=目標数値に僅かながら到達せず ×=目標数値にほど遠い

各工場・各事業所からの排水を削減

①原料てん菜貯蔵中の水利用を削減する

◆主な取り組み

- ・原料てん菜貯蔵パイル(貯蔵堆積場)

◆2030年度目標	◆2022年度目標	◆2022年度実績	◆達成状況
取水量削減率 100% (2020年度比)	散水量削減率 30%	散水量削減率 30% (2020年度比)	○

※達成状況 ◎=目標数値を大きく超えた ○=目標数値を超えた △=目標数値に僅かながら到達せず ×=目標数値にほど遠い

原料輸送から販売において、効率化を目指し、省エネ・省人省力・省資材化、製造費・販売費を低減

①原料輸送の大型車両割合を増加させる

◆主な取り組み

- ・大型車両が原料を積み下ろしできる環境を整備

◆2030年度目標	◆2022年度目標	◆2022年度実績	◆達成状況
大型車両割合 55%	大型車両割合 42%	大型車両割合 40%	△

※達成状況 ◎=目標数値を大きく超えた ○=目標数値を超えた △=目標数値に僅かながら到達せず ×=目標数値にほど遠い

②製糖作業の合理化を図る

◆主な取り組み

- ・電子帳票化ツールの導入を検討

◆2030年度目標	◆2022年度目標	◆2022年度実績	◆達成状況
-	導入に向けてトライアルを開始	導入に向けてトライアルを開始	○

※達成状況 ◎=目標数値を大きく超えた ○=目標数値を超えた △=目標数値に僅かながら到達せず ×=目標数値にほど遠い

③貯蔵原料品質管理作業の省力化を図る

◆主な取り組み

- ・原料てん菜貯蔵パイル(貯蔵堆積場)の品質管理にデジタル技術を活用

◆2030年度目標	◆2022年度目標	◆2022年度実績	◆達成状況
-	作業の省人省力化 労働災害の防止 作業精度の向上	作業の省人省力化 労働災害の防止 作業精度の向上	○

※達成状況 ◎=目標数値を大きく超えた ○=目標数値を超えた △=目標数値に僅かながら到達せず ×=目標数値にほど遠い

④てん菜種子の生産・品質管理の効率化を図る

◆主な取り組み

- ・品質管理にデジタル技術を活用
- ・種子採種圃場の収量予想及び収穫適期判定にデジタル技術を活用

◆2030年度目標	◆2022年度目標	◆2022年度実績	◆達成状況
-	データ採取を継続 システム開発に着手	AI画像処理で一定の相関。 撮影方法の精査。	○

※達成状況 ◎=目標数値を大きく超えた ○=目標数値を超えた △=目標数値に僅かながら到達せず ×=目標数値にほど遠い

3 持続可能な技術・新商品の開発

てん菜および他作物において、減農薬・減肥料・省人省力化(スマート農業)を目指し、生産費を低減

①てん菜種子の品種開発による農業の省人省力・省作業化を図る

◆主な取り組み

- ・労働時間短縮に寄与する除草剤耐性品種を導入
- ・褐斑病抵抗性品種の優良品種登録に向けた取り組みを実施

◆2030年度目標	◆2022年度目標	◆2022年度実績	◆達成状況
化学肥料施用量削減率10% (2026年度比) 耕起・防除・除草に関わる 投下労働時間削減率20% (2019年度比) 他	減農薬・省力化・炭酸ガス排出削減	「除草剤耐性品種カーベ8K879C」の 2023年度作付開始に向け 取扱マニュアルを整備 「褐斑病抵抗性品種カーベ8K839K」が 優良品種として認定	○

※達成状況 ○=目標数値を大きく超えた ○=目標数値を超えた △=目標数値に僅かながら到達せず ×=目標数値にほど遠い

②農業機材の普及による農業の省人省力・省作業化を図る

◆主な取り組み

- ・トラクタ装着型の ひっぱりくん® の拡販により、苗や球根の植付作業を省力化 ※植付労力削減効果
白ネギ：7割削減(簡易移植機 ひっぱりくん® 比) /らっきょう：6割削減(慣行植付比)

◆2030年度目標	◆2022年度目標	◆2022年度実績	◆達成状況
トラクタ装着型の ひっぱりくん® 販売目標 100台(累計600台)	トラクタ装着型の ひっぱりくん® 販売目標 累計80台	トラクタ装着型の ひっぱりくん® 販売実績 累計70台	△

※達成状況 ○=目標数値を大きく超えた ○=目標数値を超えた △=目標数値に僅かながら到達せず ×=目標数値にほど遠い

有機農業を視野に入れた製品群・栽培方法を開発・製造し、内外に普及させる

大量の炭素を長期間貯蔵する林業事業に当社技術(紙筒移植他)を活用し内外に普及させる

①紙筒育苗技術により国内における森林保全に努める

◆主な取り組み

- ・育苗技術の確立
- ・民有林での普及、推進活動
- ・林業用生分解性紙筒の開発
- ・林野庁「伐採と造林の一貫作業システム」にて紙筒苗木の容認と普及推進

◆2030年度目標	◆2022年度目標	◆2022年度実績	◆達成状況
	紙筒販売目標(国内外) 320c/s(3,200千本)	紙筒販売実績(国内外) 309c/s(3064千本)	△

※達成状況 ○=目標数値を大きく超えた ○=目標数値を超えた △=目標数値に僅かながら到達せず ×=目標数値にほど遠い

牛の健康に良い飼料を開発・製造し、牛の長命連産を目指す

①牛の疾病を予防する飼料を開発する

◆主な取り組み

- ・新製品開発
- ・開発研究成果を公表(学会発表/特許取得等)

◆2030年度目標	◆2022年度目標	◆2022年度実績	◆達成状況
8年間で4製品以上	2製品上市 (スタート18、和牛のミカタ)	2製品上市 (スタート18、和牛のミカタ)	○

※達成状況 ◎=目標数値を大きく超えた ○=目標数値を超えた △=目標数値に僅かながら到達せず ×=目標数値にほど遠い

メタン発生量を減少する家畜用飼料を開発・製造することを目指す

当社製品に使用されるプラスチック・ビニール等の包装容器類について、削減並びに代替資材類の使用を目指す

①製品包装の使用素材を見直す

◆主な取り組み

- ・砂糖製品小袋へのバイオポリエチレンの採用

◆2030年度目標	◆2022年度目標	◆2022年度実績	◆達成状況
業務用製品の包装資材 の見直し	1kg小袋のバイオポリエチレンでの 包装を保管テスト	1kg小袋のバイオポリエチレンでの 包装を保管テスト	○

※達成状況 ◎=目標数値を大きく超えた ○=目標数値を超えた △=目標数値に僅かながら到達せず ×=目標数値にほど遠い

②出荷時の包装資材を見直す

◆主な取り組み

- ・生イースト製品(銘柄：REG及びFR)段ボールに使用中のPPバンド(プラスチック製梱包バンド)の廃止

◆2030年度目標	◆2022年度目標	◆2022年度実績	◆達成状況
100%廃止	100%廃止	100%廃止	○

※達成状況 ◎=目標数値を大きく超えた ○=目標数値を超えた △=目標数値に僅かながら到達せず ×=目標数値にほど遠い

4 食の安全・安心

食品メーカーとして安全・安心な製品を提供する取り組みを継続的に推進する

①製品品質の維持・さらなる向上を図る

◆主な取り組み

- ・ FSSC 22000の認証(食品安全の国際規格)を継続

◆2030年度目標	◆2022年度目標	◆2022年度実績	◆達成状況
維持更新	維持更新	維持更新	○

※達成状況 ◎=目標数値を大きく超えた ○=目標数値を超えた △=目標数値に僅かながら到達せず ×=目標数値にほど遠い

②信頼できる製品イメージの浸透を図る

◆主な取り組み

- ・ 製品包装に家庭用「原料は北海道特産てん菜100%」、業務用「北海道製造」と明記

◆2030年度目標	◆2022年度目標	◆2022年度実績	◆達成状況
維持更新	維持更新	維持更新	○

※達成状況 ◎=目標数値を大きく超えた ○=目標数値を超えた △=目標数値に僅かながら到達せず ×=目標数値にほど遠い

5 働きやすい環境の実現

コンプライアンスを徹底し、全てのハラスメントを根絶

①ハラスメントを根絶する

◆主な取り組み

- ・ハラスメント関連研修の実施による従業員理解の深化（協力会社を含む）
- ・従業員に解説冊子等を配布し啓発を推進（協力会社含む）
- ・相談窓口を周知し、相談しやすい環境を構築
- ・管理職全員に対応マニュアルを配布、適切な措置がとれる体制を整備

◆2030年度目標	◆2022年度目標	◆2022年度実績	◆達成状況
全社員受講率100%	管理職の研修受講率100% 一般社員の研修受講率60%以上	管理職の研修受講率100% 一般社員の研修受講率76%	○

※達成状況 ◎=目標数値を大きく超えた ○=目標数値を超えた △=目標数値に僅かながら到達せず ×=目標数値にほど遠い

安全な職場環境を実現

①すべての労働災害を根絶する

◆主な取り組み

- ・外部講師による安全教育や、VR等最新技術を活用した研修の実施
- ・チェックリストや効果的な事例の全社共有
- ・リスクアセスメントの継続的な実施、設備や連絡体制を整備し、協力会社も含めた災害ゼロを目指す仕組みを構築

◆2030年度目標	◆2022年度目標	◆2022年度実績	◆達成状況
全ての製造・物流施設で実施	<u>リスクアセスメント研修</u> 4拠点で実施 <u>VR活用研修</u> 3拠点で実施	<u>リスクアセスメント研修</u> 4拠点で実施 <u>VR活用研修</u> 3拠点で実施	○

※達成状況 ◎=目標数値を大きく超えた ○=目標数値を超えた △=目標数値に僅かながら到達せず ×=目標数値にほど遠い

働きがいのある・働きやすい・安心できる職場を実現し、多様な人材を育成（従業員エンゲージメントを向上）

①女性活躍を推進する

◆主な取り組み

- ・女性管理職増加を目指し、総合職新卒採用に占める女性の比率を高める取組みを実施
- ・育児休業相談窓口の設置、育児休業に関する目標および制度の周知を行い、育児休業を取得しやすい環境を整備
- ・管理職研修等においてダイバーシティ&インクルージョンに関する内容を付加し、女性活躍や男性の育児休業取得への理解を促進

◆2030年度目標	◆2022年度目標	◆2022年度実績	◆達成状況
総合職新卒採用の女性比率 25%以上	総合職新卒採用の女性比率 2022年4月入社 50% 2023年4月入社 60%予定	総合職新卒採用の女性比率 2022年4月入社 50% 2023年4月入社 60%	○
育児休業取得率 女性100%、男性30%	育児休業取得率 女性100%、男性28%	育児休業取得率 女性100%、男性37.5%	○

※達成状況 ◎=目標数値を大きく超えた ○=目標数値を超えた △=目標数値に僅かながら到達せず ×=目標数値にほど遠い

②従業員の定着率を維持・向上させる

◆主な取り組み

- ・若年層へのエンゲージメントサーベイ、育成面談、新人フォロー研修の定期実施
- ・若年世代への教育方法に関する研修の実施

◆2030年度目標	◆2022年度目標	◆2022年度実績	◆達成状況
新卒入社社員3年後定着率 90%以上	新卒入社社員3年後定着率 2020年4月入社社員 91%	新卒入社社員3年後定着率 2020年4月入社社員 85.7%	△

※達成状況 ◎=目標数値を大きく超えた ○=目標数値を超えた △=目標数値に僅かながら到達せず ×=目標数値にほど遠い

6 地域社会への貢献

地域を活性化する取り組みを通じ、地域社会の発展に貢献

①工場・ビート資料館の見学を通じた食育活動を実施する

◆主な取り組み

・ウェブ会議システム
等を活用した工場見学
の実施を検討

・ビート資料館の館内案内の動画配信を検討

◆2030年度目標	◆2022年度目標	◆2022年度実績	◆達成状況
	見学受入れ 15団体 ※予約して来館する団体	見学受入れ 20団体 ※予約して来館する団体	○

※達成状況 ◎=目標数値を大きく超えた ○=目標数値を超えた △=目標数値に僅かながら到達せず ×=目標数値にほど遠い

農福連携等、障がい者の自立やいきがづくりを目指した社会の実現に貢献

①自治体と連携し、障がい者の社会参加を支援する

◆主な取り組み

・各製糖所にて自治体を変え、農福連携や障がい者の社会参加支援の意見交換会を実施

◆2030年度目標	◆2022年度目標	◆2022年度実績	◆達成状況
	全ての製糖所で実施	全ての製糖所で実施	○

※達成状況 ◎=目標数値を大きく超えた ○=目標数値を超えた △=目標数値に僅かながら到達せず ×=目標数値にほど遠い

②当社における障がい者雇用を促進する

◆主な取り組み

・障がい者雇用に適した業務切り出しを進め、支援施設と連携し雇用増を目指す

◆2030年度目標	◆2022年度目標	◆2022年度実績	◆達成状況
障がい者雇用 17名以上	障がい者雇用 1名増	障がい者雇用 1名増	○

※達成状況 ◎=目標数値を大きく超えた ○=目標数値を超えた △=目標数値に僅かながら到達せず ×=目標数値にほど遠い